

講義の受講の仕方について

1. はじめに

子ども教育学科の学生の大多数は、将来「先生」と呼ばれる職業に就きます。これまでは勉強を習う生徒、学生だったかも知れませんが卒業と同時に先生になります。しかし突然先生になるということはほとんど不可能です。大学生生活4年間の中で「先生」に切り替わっていく、成長していくことが大切です。そういった自覚をしっかりと持って学習に取り組んで下さい。

また大学は基本的に学生といえども「大人」ですし教員といえども対等です。そこで以下に記すことの多くはすでに自覚していなくてはならない事項です。あえてここで注意を促すのは、それだけの自覚をまだ持っていない人に向けてのこと、と考えてください。

2. 授業準備に関して

- ① 科目によって授業形態、目標は異なりますが、どの授業においても積極的な参加によって目標を達成してください。
- ② 質問等はできるだけ授業中、挙手による発言を期待します。同じ疑問を他の学生と共有することも大切です。
- ③ 成績評価は各科目のシラバスを参照して下さい。
- ④ シラバスの授業計画は熟読しておいて下さい。ただし、授業の進行や理解状況により変更される可能性はあります。必ずシラバス通りに進むわけではないことに注意して下さい。
- ⑤ 授業で使用するプリント、配布物は原則として授業中には配りません。私のwebサイトから事前にダウンロードして予習した上で各自持参して下さい。

3. 一般的な受講の仕方

- ① 毎回遅刻をしないで出席することは当然の前提です。講義の半分の時間を過ぎた遅刻は欠席扱いとし出席には数えません。
- ② 本人の判断で授業を欠席するのは自己責任のうえで行なってください。遅れは自分で補っているものと判断します。電車の遅延証明は不要です。
- ③ 授業中の私語、携帯電話の操作、ジュース類の飲食は授業の妨げになります。授業参加の意思なしと判断し、退出を促しますので十分注意して下さい。
- ④ 帽子、マフラー、手袋は常識的に考えて室内では脱ぐものです。コートについては極端に寒い場合など、状況に応じて認めます。衣類、鞆等は机の上に置かず空いている椅子、足下などに置き、学習の構えをして下さい。
- ⑤ 印刷物だけではなく自分のノートを必ず用意し、記録しながら講義に臨んで下さい。
- ⑤ 座席はできる限り前から座って下さい。あまりにも後ろに偏っている場合は座席指定、あるいは移動を行います。

4. 実習等の公欠について

- ① 実習に関わる公欠は「欠席に数えられない」というだけで、基本的に講義は聴いていないわけです。その期間中の授業内容は自分で学習して必ず補うようにして下さい。(学習した上での質問には応じます。)
- ② 講義の1/3以上の欠席の学生は成績評価をしません。大学のルールでは、例えば公欠4回、自己都合による欠席2回の場合、授業に出ていない回数は6回になります。成績の評価は行いますが、5回からオーバーした1回は補講の対象になります。十分気をつけて下さい。
- ③ 実習期間中のレポート、課題の提出については各科目によって異なりますので、その授業内で説明をします。

5. 最後に

「将来の教員として恥ずかしくない行動をする」 これが行動規範・原則です。

- ① 単位や出席の交渉には一切応じません。冒頭にも述べましたが、大学生は大人ですし、将来教員になるのに相応しい心構えで臨んで下さい。
- ② 「自分の都合で物事を考えない」ことが大切です。アルバイト、他の授業と課題が重なって忙しいなどは論外です。しっかり計画的に進めて下さい。
- ③ 秋学期は風邪をはじめインフルエンザなどの伝染病による欠席も予想されます。そういったことも想定しながら生活することが教員として重要です。

【webサイト】 <http://manabugoto.info>

LECTURE → 教育内容(算数)A・B

【e-mail】 [mgoto.biz@gmail](mailto:mgoto.biz@gmail.com)